



令和元年7月26日発行 中等新報第16号  
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

## 5年地域プロジェクト ～ 多様な生き方を知る ～

7月24日（水）、5年生がLHR・総合的な学習の時間を使って、「地域プロジェクト～地域を支える人・元気になる人へのインタビュー」を実施しました。地元村上で活躍する方々をお招きして、「村上で生きることに決めた理由」や「これからの村上の街づくり」等について質問する活動です。今後、村上の魅力アピールするCMづくりや、「10年後の村上」と題して、町を活性化する企画を村上市へ提言する活動につなげていきます。

この日、当校を訪問してくださったのは、都岐沙羅パートナーズセンターの斎藤主税様、株式会社きっかわの吉川美貴様、株式会社いろむすびの古林拓也様、素泊まり宿よはくやの高橋典子様、増田建設株式会社の増田寛之様、行政保健師の佐野祥子様、地域おこし協力隊の川村悠樹様の7人です。



かねて用意してきた質問を一生懸命伝える生徒たち。（上段：左から吉川様、高橋様、古林様。下段：左から増田様、佐野様、川村様）

### 生徒の感想

- ・古林さんの、「村上の素晴らしい食資源を全国へ」という想いから東京まで山菜を販売しに行ったり、空き家を利用して旬の食べ物を提供したりするなど、行動を起こしてその効果が上がっていることが本当にすごいと思いました。また、若者への一言で、「他の誰かと自分を比べて生きるのはつまらない」という言葉が印象に残りました。現代社会で、人の目を気にしないのは難しいけど、自分の考えを大切に生きていきたいと思いました。
- ・「よはくや」という素泊まり宿を経営する高橋典子さんの話でもっとも印象に残ったのは、「町全体を宿にする」という言葉です。自分や宿が主体ではなく、町や泊まりに来る人自身に主役になってもらい、ふだんの村上の良さを知ってもらいたいというのが高橋さんの思いでした。この思いをたくさんの人たちに伝えられるよう、CMづくりに尽力したいと思います。
- ・今回のインタビューをとおして、保健師という職業についての理解が深まった。老人のケア、引きこもりの人のカウンセリングだけでなく、自分が相手の立場に立った時、してもらって嬉しいこと、されて嫌なことを考えることが基本だと改めて感じた。佐野さんの、「10人の人がいたら、10人それぞれ違った幸せを考えてあげる。」この言葉がとても印象に残った。



新潟県立村上中等教育学校

〒958-0031 村上市学校町6番8号 TEL.0254-52-5101 FAX.0254-53-6773  
HPアドレス <http://www.murakami-ss.nein.ed.jp>